

シリーズ：子どもの権利 No.26 冒険遊び場「ちょっとバン」の川口さんに学ぶ

かわくち

1月の「せんなん子ども会議」では、冒険遊び場「ちょっとバン」の川口さんのお話を聞きました。泉南市の公園のことを考えてきた子ども委員は、これまでの公園の概念とは異なる、違う形の公園の存在を知ることになりました。話の一部を紹介します。

○冒険遊び場とは

公共の公園のように既製の遊具がある場所ではなく、土や木や水といったその場にある要素を自由に使って作ったり壊したり、子どもが遊びを作り出したりできる遊び場のことで、1943年にデンマークで始まり、日本では1970年代に東京で「プレーパーク」という名称で、第1号が誕生しています。

○冒険遊び場「ちょっとバン」とは

堺市の大型児童館ビッグバンの敷地内にある「子どもたちで作る子どもたちの遊び場」です。子どもたちや地域

の人に理解し愛される「子どもの日常的な遊び空間」になるように“ちょっとずつ”やっいてこうという気持ちで「ちょっとバン」と名付けられました。設立15年になります。遊具はそれほど多くなく、砂、土、木、落ち葉、水、畑などたくさんの自然、そしてスコップやのこぎりなどの道具があるだけです。子どもたちの遊びを見守ってくれる、昔、遊びの天才であった若者やおとながいます。どんな遊びをするかは、子どもたちが考えます。

○川口さんが「公園プロジェクト」をすすめている子ども委員のみんなに伝えてくれたこと

何か遊びを企画したり、みんなで力を合わせて実行したりするには、①元氣②やわらかい頭③集中力が大切で

す。この3点を大切にしてください。2月には実際に「ちょっとバン」に来て、企画のヒントをたくさんつかんで帰ってください。

その後、子どもたちは、川口さんに教えていただいた3点を身につけるために、いろいろな特訓を受けました。人間知恵の輪だったり、「牛乳パック」「わりばし」などの素材から5秒で遊びを考えて発言したり、ペットボトルの口を上から割り箸を落とし入れたり…とても楽しい時間でした。



【問合せ】 泉南市子どもの権利に関する条例事務局（人権教育課 ☎ 483-3672 / FAX483-7306 / e-mail:jinkenkyouiku@city.sennan.lg.jp）